令和５年度　学校教育の努力点とその推進

Ⅰ　研究主題

進んで学びに向かう児童の育成

Ⅱ　研究のねらい

昨年度の努力点によって、児童は「やってみたい」「考えてみたい」という思いをもちながら学びを進められるようになった。これらは、導入で本時の学びにつながる活動や前時の振り返り、課題設定を行ったことによる成果である。しかし、「やってみたい」「考えてみたい」という思いが長続きせずに、「進んで学びに向かう姿」が途中から見られなくなった児童が出てきた。

そこで、今年度は昨年度の成果を踏まえつつ、さらに児童の学びに向かう姿勢を高めていきたい。導入段階で抱いた「やってみたい」「考えてみたい」という思いを、昨年度よりも継続させていくことが今年度の研究のねらいである。重点を置くのは「個別最適な学び」である。「個別最適な学び」を言い換えると「課題解決の方法を構築・選択する学習」であると考える。つまり、自分に合った学習方法や課題解決のアプローチを自ら考えて決定し、試していく姿勢が重要になってくる。そのために、児童自身にめあて（学習の到達点）を決めさせたり、様々な選択肢を提示したりして努力点研究を進めていきたい。

また、児童が進んで学びに向かうためには、教室が「安心・安全で幸せな居場所」であることが必要である。そのために、努力点研究の土台として日々の学級経営にも重点を置き、互いを認め合い、尊重し合える学級づくりも同時に進めていきたい。

Ⅲ　研究の内容

(1) 本研究で目指す児童像（令和５年度は①を継続しつつ②に重点を置く）

① 「やってみたい」という思いをもち学びに向かう児童

・　学習課題に対し、「これならできそうだ」「こう考えればいいかも」「不思議だな」「気になるな」と興味・関心をもち、自分事として考え、取り組むことができる児童。

② 課題解決の方法を構築・選択して学びに向かう児童（個別最適な学び）

・　課題解決に向けた方法を自ら構築したり、選択したりして、自分の能力に応じた課題解決ができる児童。

③ 仲間とともに学び合う児童（協働的な学び）

・　課題解決の過程や振り返りの場面において、自分の考えを伝えたり、相手の意見を取り入れたりしながら、仲間とともに学ぶよさを味わうことができる児童。

(2) 実践方法

目指す児童像の実現のために、授業実践と日常実践では下記の内容を中心に取り組む。

【授業実践】

児童が自分で学びの進め方を決められるための支援

児童が導入段階で学習内容に興味・関心をもった後、学びを進めていくために「めあて（学習の到達点）を決めさせる」「様々な選択肢を提示する」などの工夫を行う。

【めあて（学習の到達点）を決めさせることの具体例】
授業後や単元の終わりに何ができるようになっていたいか決めさせる

【様々な選択肢を提示することの具体例】
・学習課題を解決する際に、「まず一人で取り組む」「友達と一緒に取り組む」「教科書やタブレットを活用して取り組む」「グループで取り組む」など選択肢を提示する。
・練習問題に取り組む際にどの問題から解くか決めさせる

【事前・事後のアンケート調査】

４月・１月に全児童対象のアンケート調査を行い、児童の実態や目標の到達度をつかみ、次年度の実践に生かす。

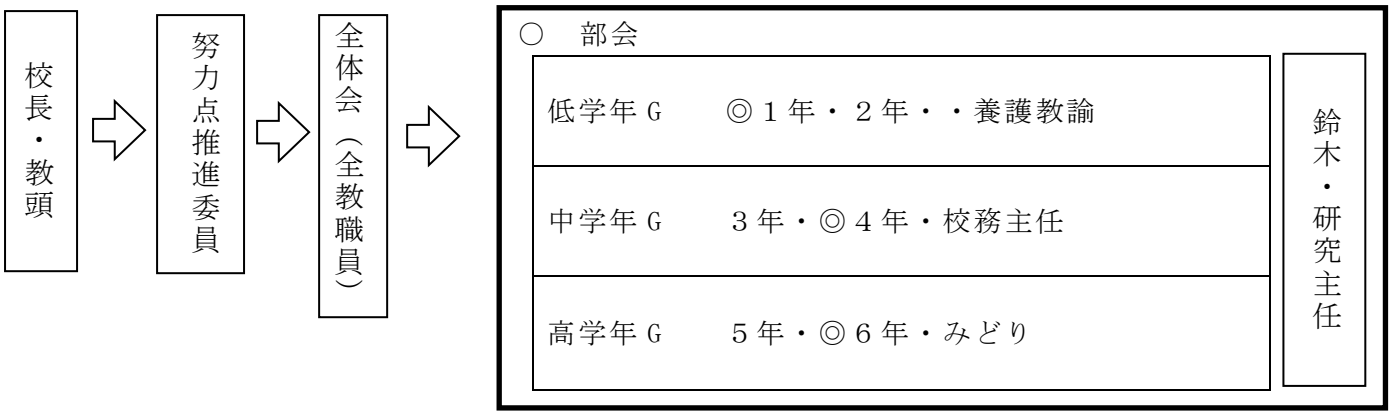
【日常実践】

安心・安全で幸せな居場所づくりの具体的な取り組み
（◎は全校統一、〇は学年に応じて）

◎　共感的に聞く態度を育てる。（見る・うなずく・受け入れる）
◎　学習規律を確立させる。
　①　時間を守る
　②　始業・終業のあいさつ
　③　次の学習の準備
〇　指示・指導や時間の「見える化」
　・　イラストや写真など視覚的に分かりやすい指示や指導
　・　タイマーを用いた終了時間の明確化
〇　教室環境を整える→心を整える
　・　掲示物の色や量、配置を工夫し、刺激の少ない環境を整える。
　・　教材教具の置き場をラベルやイラストで示し、整頓しやすい環境を整える。

【引用：令和２年度　センター研究「多様性を認め、共に学び合えるインクルーシブ教育」】

Ⅳ　研究推進の組織



※　上記◎：各部会を取りまとめる部会長
※　努力点推進委員会：部会長（低学年１名、中学年１名）、努力点研究主任、教務主任で構成

Ⅴ　今後の予定

○　４／１０（月）	努力点推進委員会 ・実践内容についての具体的な進め方についての検討 ・代表授業者の検討
○　４／１３（木）	努力点全体会
○　～４／２８（金）	実態把握（アンケート調査）、実践単元決定
○　５月～	実践開始
○　９／７（木）	全体授業事前検討会
○　９／２５（月）	全体授業・事後検討会
○　１０／３０（月）	中間検討会
○　１／３１（水）	公開授業終了、実態把握（アンケート調査）
○　２／９　（金）	最終報告書提出締切
○　２／１９（月）	努力点最終報告会
○　２／２２（木）	努力点推進委員会（次年度へ向けて）